

第五十五回愛育班員全国大会 秋篠宮皇嗣妃殿下お言葉

令和五年四月十一日(火)

本日、第五十五回愛育班員全国大会に出席し、各地から参加された愛育班員、並びに関係者の皆さまにお会いできましたことを、大変うれしく思います。

これまで長年にわたり活動してこられた愛育班員の皆さま、保健師として愛育班員の活動を導き支えてこられた育成者の皆さまに、深く敬意を表します。また、本日表彰を受けられる方々に、心からお祝いを申し上げます。

恩賜財団母子愛育会は、昭和八年十二月、上皇陛下のご誕生にあたり、母と子が健やかに成長することを願われた昭和天皇の深い思し召しにより、翌年二月に設立されました。その後、長い年月にわたり、愛育班の皆さまは、乳幼児から高齢者まで、地域の人々に声をかけ、あたたかく見守り、やさしく寄り添ってこられました。親子が楽しく遊ぶ集まりや高齢者との親しいふれあいなど、様々な活動をされています。また、災害時には、被災者に心を寄せて支援されたこともありました。

この数年間、コロナ禍で愛育班活動は大きな影響を受けました。行動への制限がある中であっても、愛育班の皆さまは、何ができるかを相談し合い、感染症対策をされながら、できることを模索してこられたと伺っております。最近では、以前に進めていた活動を再開できるようになったという明るい知らせも届くようになりました。

昨年十月に、私は秋田県を訪ねる機会に恵まれました。その折には、潟上市と八峰町の愛育班員と育成者から、介護予防学習会や乳児健診での絵本の読み聞かせなどについてお聞きしました。また、潟上市愛育会がおこなった「工作教室」に参加し、親子とのふれあいの中で、私自身も楽しいひと時を過ごすことができました。今後も、愛育班員の皆さまに直接お会いする時間を大切にして参りたいと思います。

全国の愛育班活動に携わっておられる皆さまに、深く感謝しております。これからも、皆さまが人々の健康と幸せを支える活動の発展と充実に向けて力を尽くされ、愛育の心が受け継がれていくことを願い、大会に寄せる言葉といたします。